

□ 寄稿 □

大人の自由研究

「海苔商と諏訪人」

伊藤 文夫

1 「大森 海苔のふるさと館」

長野日報に掲載された「諏訪人も大活躍
「海苔商」の底力(2023・10・15)の
記事を目にし、50年も前のことになるが、
湖南のFさんが「冬は、昔からこら辺の
方の中には、大森をはじめ日本各地に海苔
養殖の出稼ぎに行っている。私は岡山に出
かけているが…」と語ったことを思い出し
た。「諏訪人気質」を探求する上で、参考
になると思い調べはじめた。

今はネットで検索すればある程度のこと
はわかる。書物では「御湯花講由来」(宮下

章著)が参考になった。実地調査としては
東京大森を訪れた。

まずは、かつての海苔の漁場であった埋立
地に建てられた「大森 海苔ふるさと館」を
訪ねた。ここには、大森が海苔の漁場に適し
た海岸であったことや海苔養殖の歴史がイ
ラスト、写真、映像等でわかりやすく解説さ
れている。展示物には当時使われていた漁
具や海苔網に交じり再現された海苔舟もあ
った。その船名には「伊藤丸」(大森本場乾海
苔問屋協同組合加盟店には諏訪に関わりの
ある「いとう」と名の付く業者が3軒ある)
と刻まれていて親近感をもった。まさに海苔
の一大生産地であった大森の歴史を学ぶ学
習施設といえよう。私が訪れた日も高校生
のゼミが学びに来館していた。なお、手に入
れたかった「海苔商たちの底力」(大田区立
郷土博物館発行)を購入することができた。
次に、諏訪とのかかわりを探るべく京急

大森町駅周辺を散策してみた。海苔店が何
軒もあり、店名を見ていくと「藤森」「守矢」
「金子」「五味」「伊藤」「立石」「日達」「関」:
諏訪でもよく見られる苗字の店名をみるこ
とができ、ルーツは諏訪にあるとのこと。
近くには諏訪神社も鎮座し本殿の後方には
下社もあり、ここでも諏訪とのつながりを
感じることができた。

2 御湯花講と「株」藤正「社長藤森さん

先日、長野県文化財保護協会諏訪支部
は、中洲にある「株」藤正「海苔の加工・
卸売業」の工場見学と上社で行われた御湯
花講の神楽を見学する巡検を実施した。

工場見学では、海苔の加工の様子や卸売
りされる商品等を見せていただくことも
に、藤森社長の「業界の国際化のために留学
を経験し、さらには日本の海苔養殖が衰退
していくことを見据えて中国や韓国に海苔
の入手先を確保してきた等、先見の明のあ